

(外国語活動)

伝え合える英語力へのアプローチ

大阪市立常盤小学校 研究部

1. はじめに

2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定した。このことを見据え、文部科学省は平成25年度に「グローバル化に対応した英語教育実施計画」を発表した。この計画の内容には、小学校に関しては、大きく3つのことが明記されている。1つ目は、中学年で週1～2コマ程度の活動型の英語活動を実施し、コミュニケーション能力の素地を養うこと。2つ目は、高学年で週3コマ程度の教科型英語活動を実施し、初歩的な英語の運用能力を養うこと。そして3つ目が、これらを指導することができるように、学級担任の英語指導力を向上させること。2018年度には段階的に実施、2020年度からは完全実施する予定となっている。グローバル化が進む中、社会に対応する英語力を将来児童が身に付けることができるようにするために、早期英語教育の必要性が叫ばれている。

本校では、平成25年度より2年間、「言語文化の創造」を研究主題とし、多様な言語活動の充実を図ってきた。その1つの柱として「外国語活動」では、週1回朝学習の時間を「英語タイム」として設定し、全学年英語活動を行うことにした。また、教育センターの「がんばる先生支援事業」を活用し、英語指導用教材を多数購入し、児童が楽しんで英語活動に取り組むことができるようにした。その結果、児童は意欲的に英語タイムに取り組むようになったが、「系統立てた指導をする」「英語指導用教材を効果的に活用する」「英語の指導法を充実する」などの課題が残った。

そこで、今年度より、これらの課題を解決するために、研究主題を「伝え合える英語力へのアプローチ」とし、英語活動の研究に取り組むことにした。

2. 研究の主旨

5・6年外国語活動の指導要領には、以下のように目標が明記されている。

音声を中心に外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養う。

この目標が確実に達成されるように、「学習課程の作成」「学習環境の整備」「教員の指導力向上」に研究の視点を置き、研究を進めることにした。

3. 研究の概要

(研究の柱①) 学習課程の作成

各学年の目標を以下のように設定する。

低学年：**「聞く活動」**を中心にして、英語に慣れ親しむ。

中学年：**「聞いたり、話したりする活動」**を中心にして、英語に慣れ親しむ。

高学年：**「伝え合う活動」**を中心にして、英語に慣れ親しむ。

以上の目標が達成できるように、6年間を視野に入れた学習課程を作成する。高学年で現在使用している「Hi, Friends!」を基にして、高学年の指導内容につながるよう、低・中学年の学習課程を考える。

また、高学年では年間 3 5 時間、中学年では年間 1 5 時間程度、そして低学年では年間 1 0 時間程度英語活動を実施する。モジュールを活用し 2 0 分授業を 2 回、1 5 分授業を 3 回行う等の授業時間も工夫する。

(研究の柱②) 学習環境の整備

英語が使いたくなるような、また英語が身近に感じることができるような環境づくりをする。そのために、教室や廊下・階段などの掲示物やクラスルームイングリッシュの表を作成する。児童の身の回りに英語を表記することで、英語を身近に感じることができると考えられる。

さらに既存の英語指導用教材を整理し、指導内容に応じて使い分けることができるようにする。指導内容に合わないものが多いときは、教材を新規に作成し、保管する。

(研究の柱③) 教員の指導力向上

学級担任の英語指導力を向上させるために、各学年年間 1 本の研究授業を実施する。外部講師を招いた研究協議会を合わせて実施することで、授業後の協議がより活発になるようにする。

また、英語の指導に関する研修会にも積極的に参加し、全員で共有できるように伝達講習を行う。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 各学年で指導する内容を年間指導計画に明記することができた。
- 各学年の授業実践を通して、その学年に合う指導法を探ることができた。
- 各学年に合う英語指導用教材を発掘したり、新規に作成したりして活用することができた。
- 英語の伝達講習を行い、教員の研鑽を図ることができた。

(2) 今後の課題

- 年間指導計画の内容を含め、さらにわかりやすいように改良する。
- 特に視聴覚教材の有効な活用法を探り、使用しやすいように環境を整備する。
- 外部講師による研修会を実施する。